



今月は見逃しやすい病気の症状についてです。


この子の気質、少し変わった癖、体質、体格だから病気の発見を遅らせてしまうかも!?


シッポを振らない

もしかすると…

椎間板ヘルニア、肛門まわりの病気かも!?




 飼主さんが褒めたり、嬉しいことがあってもシッポも振らないワンちゃんは、感情を表すのが苦手なのではなく、シッポや肛門周りに痛みがあったり、シッポを動かす神経が麻痺しているかも! 肛門から膿が出たりしていないか、よく観察して下さい。


 シッポの短いワンちゃんは、お尻周りの異常に注意。シッポの動きがなくなっても気づきにくいシッポが短い犬種は念入りな確認が重要です。

毛づくろいが大好き

もしかすると…

乳腺炎や皮膚炎など舐める箇所の炎症!?

 よく毛づくろいをするワンちゃんをきれい好きと勘違いしていませんか? ワンちゃんが自分の体を舐めるのは痛みや痒み、緊張が原因のことも。頻繁に舐める箇所に腫れや赤みがないか確認してみましょう。

 お手入れの時は毛並みに注意。お手入れしながら皮膚がかさついていたり、毛ヅヤが悪くなっていないか確認を。

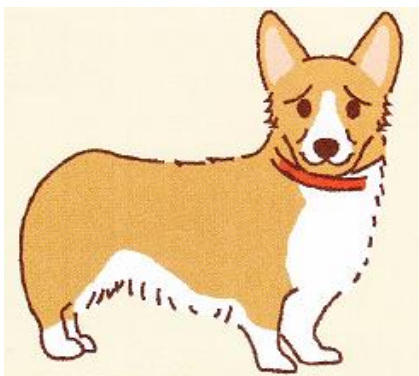
定期的なお手入れは大事な
んだよ♪





顔つきが悲しげ

もしかすると…

甲状腺機能低下症



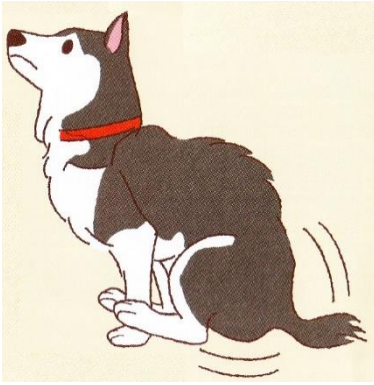
 甲状腺から分泌されるホルモンの量が少ないことで起こるのが甲状腺機能低下症です。

 活動量が減少して元気がなくなり、顔つきも垂れ下がって悲しげに見えることがあります。大人しくなることに加え食欲が落ちることも甲状腺機能低下症の症状です。

お尻をこすりつける

高確率で…

肛門腺の炎症など肛門周りの病気



壁や家具にお尻をこすりつけたり、前足で体重を支えて床にお尻を擦り付けるのは、臭い付けの行動ではなく、お尻にかゆみが生じているからかもしれません。

お尻を床にこすりつけたり、舐め始めたら肛門腺を絞って。肛門周りに膿や血液が付いていたらすぐに診察を。

触られるのが嫌い

もしかすると…

皮膚病など触られるのを嫌がる部位の病気

触られる時に攻撃的になったり、嫌がって逃げたりするのはスキンシップが嫌いなのではなく、その部位に痛みがあり、痛いから触らないで！という意思表示をしているのかもしれない。

触られるのが好きなワンちゃんにしておきましょう。お手入れや触られるのが好きなワンちゃんだと、触られるのを嫌がった時、変化に気づくやすくなります。

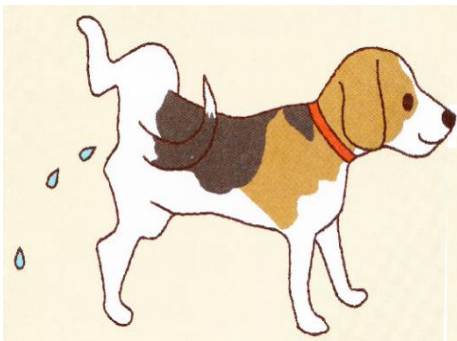
痛いよ！
触らないで！



おしっこは少しずつする

高確率で…

尿路結石、膀胱炎など泌尿器の病気



散歩中でもないのに、一気におしっこをするのではなく、数滴ずつなど長い時間をかけてちょびちょびおしっこをしていたら、尿路結石や膀胱炎が原因で尿の出が悪くなっているのかも。

放置すると完全に出なくなることもあるので急いで病院へ。おしっこの体勢なのに出ていないなら要注意！

肌質がオイリー

もしかすると…

マラセチア皮膚炎、脂漏症

肌がベタついていたり、フケが出やすいことをただの「オイリー肌」と思っていますか？カビが原因の皮膚炎や脂漏症の可能性ががあります。

脂漏症のフケは乾性と湿性がありますが、両方ともシッポの付け根にフケが集中します。お手入れの際、皮膚の症状に合わせたシャンプーを試してみは！？